

最終的に町内で各種のボランティア活動を精力的に行っている「地域を支えるネットワーク」の皆さんにお願いをすることにしました。

開設当初は、ある程度登録はされても、なかなか成果が上がらず、2年目の昨年度は、新たな試みとして一度、セミナー開催と婚活イベントを専門業者にお願いました。その流れを受け、3年目の今年度は、本格的に専門業者にアドバイザーとしてお願いをし、「学べる相談所」として、登録者の方や相談員の方のレベルアップを目指し、相談業務や各種セミナー、親御さんに対する相談会、多様な婚活イベントの開催など、相談員も一緒になって、取り組んできた結果、相談所利用者数はもちろん、登録者数やマッチング数、お見合い件数も格段に増え、現在交際中の方も数組ある状況となっています。これは、「ネットワーク」の相談員の方に、本当に一生懸命誠意を持ってあたっていたらという結果だと思っておりますが、相談員の方の人数も徐々に減ってきていますので、新年に入りましたら、相談員を公募するよう考えているところです。

来年度に向けては、まだ明確にお答えできませんが、一組でも成婚に結びつくよう、行政と協働して取り組むことに取り組んでいきたいと思います。

んでいきたいと思います。



加藤良治議員

Q1 地域交流拠点の整備について

地域交流拠点整備

問 「地域福祉・交流拠点整備事業」は、商店街の空き店舗や空き家を活用し、地域の高齢者を中心とした障害者・子ども・乳幼児と親など多世代の交流ができる拠点のことである。世帯構成の推移とともに、日常生活の様々なサポート体制の構築が急務となっている。そこで、今般の総合事業への移行を含め拠点整備について町の考えを伺う。

答 (市岡健康福祉課長) 八百津町の本年4月1日現在

の高齢化率は36・17%で、人口11,534人に対して65歳以上高齢者は4,172人です。今後さらに高齢者夫婦世帯や独居老人世帯が増え、日常生活が維持できない深刻な状態になることが懸念されます。こうした問題の解決策の一つとして、身近な地域において住民相互の交流と連携を深め、「共助」の意識が自然な形で育まれる、地域社会づくりや地域福祉保健活動の推進が有効な取組であると考えています。高齢者、障害者、子育て世代などの幅広い町民が安心して自分らしく暮らせる地域づくりを目指す必要があります。

そこで介護保険制度では、来年度から町で行う地域支援事業の中で、地域のボランティアや元気な高齢者が新たな担い手となって、地域で支え合う仕組みを構築することを目指して「介護予防・日常生活支援総合事業」いわゆる総合事業を実施します。今月中に各地区懇談会を開催し呼びかけます。第一段階として、本年度、社会福祉協議会に生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)を配置しました。今後、事業主体や生活支援の担い手など参加者を呼びかけ協議体を設置してまいります。協議体の議論の中で拠点整備の必要性が出てくると思われま

す。ご質問にありますように、空き店舗、空き家等を活用した多世代の地域住民交流の場や高齢者、障害者、子どもなどが集える拠点の整備のために、厚生労働省所管の「地域福祉・交流拠点整備事業交付金」を活用するのも一つの方法であると考えています。総合事業もまだ始まったばかりですが、今後、先進地事例を参考に日常生活のサポート体制構築と地域拠点整備を検討したいと考えています。

問 今回の総合事業では、主体が各自自治体となるため、取り組み方次第では、市町村格差が生まれることが懸念されることになるが町としてどのように対応しているか伺う。

答 (市岡健康福祉課長) 総合事業に市町村格差が生じることが懸念されるというご指摘は、行政の取り組み方次第ではそのような結果になりますので、当町としては管内市町村の動向を踏まえて実施したいと考えています。現状では、介護予防・日常生活支援総合事業である、訪問・通所事業については条例で定めた平成29年度から実施します。また、包括的支援事業の内、生活支援体制整備事業については、条例で平成30年度から実施することとしていますが、前倒しで生活支援コーディネーターについては本年度、平成28年度当初から配置し、協

議体の設置については、平成29年度中に設置できるように現在準備中です。そのため、施行日を平成29年4月1日と定める介護保険条例の改正を、3月議会でお願する予定をしております。このような状況から、可茂管内の市町村と比較しても遅れていることはありません。各市町村とも情報交換をしながら努力しているところです。要支援者の支援ニーズに応えるため、今、まさに協議体の体制整備と人材育成に取り組んでいるところで、拠点整備についても議論したいと考えています。

例えば、町民の方が家族のように気楽に集える身近な場所として、「老人憩いの家」があります。自治会で28カ所整備されていますが、拠点の候補としてあげることができると思っています。多世代が無理をせず、自然に協力できるような共同体づくりを理想として取り組んでいきたいと考えています。

